

素敵に輝け！

時節に応じた挨拶

3学期の初日。早めに校門前に立ち、登校する子供たちを待ちました。

しばらくして登校班がやってきました。変わらぬ様子にホッと、これまでのように横断歩道を渡るのを見守っていると、5年のAさんが、「あけましておめでとうございます」と挨拶をしてくれました。意表を突かれ嬉しくなりました。

自分で「新年の挨拶をしよう」と考えて言ってくれたのでしょうか。それとも、家族の方が「年明け初日だから、新年の挨拶をしられ」と教えてくださったのでしょうか。本人が自分で考えたのであれば勿論立派です。たとえそれが家族の人からの教えであったとしても、そういう会話が家族でなされたことは素敵なことですし、本人が教えてもらったことを素直に聞いて言ってくれたことは立派なことです。とにかく、時節に応じた挨拶をしてくれたことが嬉しく、立派だと感じました。

挨拶を交わすというのは、素敵なことですし大切なことですね。

「いただきます」「ごちそうさま」の気持ちを大切に

13日（木）、3年生のBさんが給食を終えた後のワゴン車を配膳室に戻しているのを見かけました。それだけであればいつもの光景なのですが、Bさんは、ワゴン車を入れて戸を閉めた後、合掌をしました。驚いて「何で（合掌を）したんですか」と思わず聞きました。すると「ごちそうさまと思って。それだけです」と返ってきました。

「いただきます」とは、私たちの食材となるために、自らの命を捧げてくれた動植物や給食となるために手間をかけてくださった方へ、「その命を、その手をいただいて食べることができます」という感謝の言葉です。

「ごちそうさま」は、「ご馳走さま」と書きます。「馳走」という字は「走りまわる」という意味で、昔は食材を揃えることは大変なことで、食事を出すために馬を走らせたり、自ら狩りをしたなど、方々へ走りまわって準備したりしたことが由来だそうです。つまりは、多くの生き物の命をいただいたこと、手間をかけてくださったことへの感謝の言葉と言えます。

以前、「お金を払って食事をしているのに、どうして『いただきます』と言わなくてはいけないの」という投稿をについての記事を見たことがあります。これは「食事への対価を払っているのに」という考えなのでしょうが、この考えには「命を捧げてもらっている」という考えが欠如していると感じます。

合掌に限らず感謝の仕方はそれぞれであっても、私たちが生きていくために命をくれた動植物や、手間をかけてくださった人たちに対しての感謝の気持ちとそれを表す言葉は大切にしていきたいですね。

Bさんの感謝の気持ちが表れた姿が、とても尊く感じられました。